

令和6年度

「県・市町村青少年相談担当職員研修会」

参加者アンケート結果

群馬県子ども・若者支援協議会

令和6年度 県・市町村青少年相談担当職員研修会 アンケート結果

日時 令和6年12月19日(木)

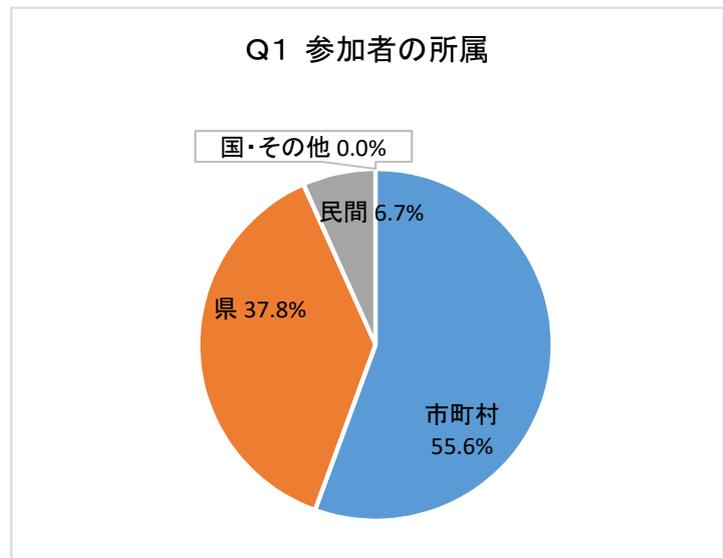
13:00~16:40

会場 群馬県公社総合ビル

○研修参加者 160 人
 ○回答者 45 人
 ○回答率 28.1 %

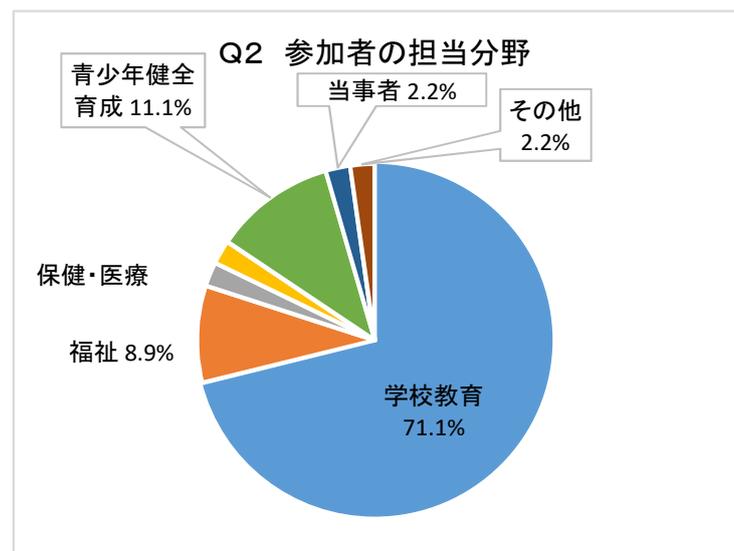
Q1 回答者の所属

	人数	割合
市町村	25	55.6%
県	17	37.8%
民間	3	6.7%
国・その他	0	0.0%
合計	45	



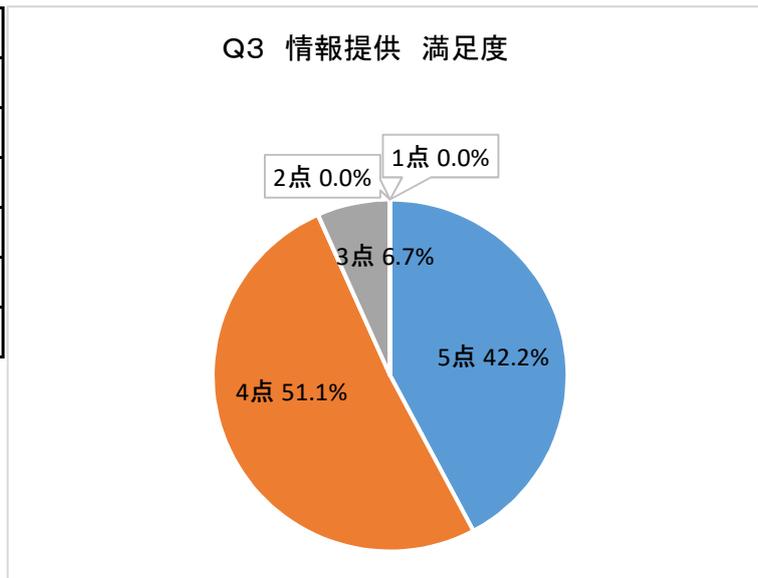
Q2 回答者の担当分野

	人数	割合
学校教育	32	71.1%
福祉	4	8.9%
保健・医療	1	2.2%
雇用	1	2.2%
矯正・更生保護	0	0.0%
青少年健全育成	5	11.1%
当事者	1	2.2%
その他	1	2.2%
合計	45	



Q3(1) 研修会の内容について、あなたの満足度はどれにあたりますか。

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	19	42.2%
	4点	23	51.1%
	3点	3	6.7%
	2点	0	0.0%
	1点	0	0.0%
合計		45	



(2) 情報提供「つなサポ」について、感想等自由に記入してください

情報提供 不登校の子どもたちの新たな学び場「つなサポ」における支援について

・群馬県総合教育センター子ども教育相談係 補佐 西田麻規さん

1	「つなサポ」を映像として視聴することができましたので、教育センターで行われている不登校児童生徒の具体的な対策がよく分かりました。
2	子どもたちにとって大切な関わり方法の一つだと思います。必要な場所・情報なので、必要な方々だけでなくもっとたくさんの方に周知されたいと思います。
3	今までも説明を聞いたことがありましたが、今回は具体的な映像を観ることができ、とても参考になりました。
4	「つなサポ」の言葉は聞いていたが、実際の内容をよく知らなかったもので、参考になりました。自分のペースで学べるところがとても良いと思いました。勤務校には対象となる児童は今はいないのですが、今後、選択肢の一つとして提示できるとよいと思います。もう少し対象児の枠が広がるとよい気がしました。
5	今年度6月からスタートした【つなサポ】実際のアバター体験の1コマがわかりやすくとても良かった。可能であれば、【つなサポ】実際の学校現場で活用できるリーフレット等を現地で頂戴できたら嬉しかった。資料は「サポート開始は令和6年6月予定」のものであったので。パワーポイントにて紹介されていた内容の抜粋版でもいいので、不登校傾向の本人と保護者に案内できるものとして、案内チラシやリーフレット等の作成により目に触れる事ができると今後にも期待します。
6	聞いたことがある程度だったので具体的な内容を知ることができてよかったです。ICTの苦手な年代の私には、バーチャルの世界での学校に少し違和感を感じ複雑な思いです。しかし、今の子どもたちには適した支援の在り方だとも思いました。
7	私が担任している子もお世話になっています。利用者が急速に増えているらしいので、来年度はもっと担当する先生が増えた方がよいと思いました。
8	自校の教育相談部会で話が上がっていたので、運営や実態を聞いて良かったです。
9	メタバースの中で交流できるのはよいと思いました。学校に時々行っている子、メタバースにも入れない子など、不登校でもいろいろな状況や段階があるので、それぞれの段階での支援ができるとういと思います。
10	動いている様子を知ることができたので、参考になった。生徒が興味をもつのも納得した。生徒に紹介していきたい
11	学校がなかなか、勧めてくれないし、紹介もしない。これだけ不登校が多いと、つなサポのような学びも必然だと思う。

12	3Dメタバースで始める、というスタイルは、自分自身にとってはハードルが高いですが、デジタルネイティブの今の子ども達には受け入れやすいのでしょうか。現実社会での人間関係構築へ結び付けられるとよいですが、メタバースの中で満足(完結)してしまうケースはないのか、不安もあります。
13	今までは見たことがなく、イメージできなかったのですが、実物を見られることができ、必要な子がいた時にお勧めしやすくなりました。
14	人と関わるのが困難な児童生徒、ゲーム世代の子供にとってはとても画期的な方法だと思う。義務教育を卒業し、次につながるよう取り組んでいくことが必要と感じた。
15	知らなかったなので、どんな取り組みをしているのかもっと聞けたらよいなと思いました。
16	自分のペースに合わせてやりたいことを選択し、他の人とも繋がることのできるのを楽しそうだった。
17	ヴァーチャルな世界で、子どもたちが「学校でない雰囲気です学校っぽい活動ができる」というのがおもしろいと思いました。ヴァーチャルな環境に集まる子どもたちにも、一般的なSNSトラブルのようなものがあるのかな？その場合、どんな対応がなされるのかな？と気になりました。
18	この研修会の前日につなサポを見学させていただいた。スタッフが綿密に対応していることや、利用者が自分の思いを出したり参加している仲間とかかわり合ったりしている様子がよく分かった。今回の説明だけでは、そのよさが十分には伝わらなかったと思う。
19	このような新しい取り組みがあることを知ることができた。必要とするこどもがいれば紹介したい。
20	可能性の一つとして情報に初めて接しました。自校の全欠不登校の担任に勧めるためにはさらなる周知が必要でしょう。実際に活用している児童生徒の感想や学校としての手応えなどを広く知らせていくとよいです。
21	名前は聞いたことがあったが、具体的な様子を知ることができて良かった。
22	現場のことがよくわかり、参考になりました。
23	多様なつながり方の場を提供するという点では、一つの方法としてよいと思いました。そこに参加している人の生の声を聴いてみたいです。
24	いろいろな学びの場があって、児童生徒が適した場を選んで学習できるのはいいなと思いました。学校教育に携わる平の教員としては、裁量が一切ないためできることは少ないが、私見を言ってもよいなら、システムとして公教育の場で様々な学び方ができる場と人がいればよいのではと思う。現状で教員が足りないままでは実現は難しいかもしれない。
25	話は聞いていたが実際に映像を見ることで雰囲気を味わえたのでよかったです。人間関係がうまく作れないこどもにとっては練習の場になるので良いと思います。ただ、家庭にパソコンがないとダメなのかパソコンやWi-Fiを貸し出してくれるのか疑問に思いました。
26	つなサポがどのように運営されているかがイメージできなかったが、動画で示していただきイメージができた。
27	情報提供ありがとうございました。本校でも勧めた生徒がいますが、まだうまくつながっていない状況です。よい取り組みですので、今後も校内で情報提供はしていきたいと思っています。
28	つなサポの取り組みを今回詳しく聞きました。67人も生徒が在籍していることに驚きました。バーチャルな世界ですが生活リズムを定着化させるなど有効なツールだと感じました。
29	担当の方からのお話を聞く機会は初めてだったので、実際の様子がよく分かり大変参考になった。
30	メタバースを利用した時代のニーズにあった画期的な取り組みだと思いました。「つなサポ」が現実世界の学校へ戻るきっかけになれば本当に理想的だと思います。
31	アバターを使ったこのようなプログラムは初めて知ったので、興味をもちそうな中学生もいそうだなと感じました。学校で紹介したいなと思いました。
32	「つなサポ」の存在は知っていたが、実際どんなことをするものなのかまでは知りませんでした。今日の発表を聞いて具体的な内容がわかり、担当する子どもの中にも活用できそうな子がいるので、検討してもよいのではと思いました。今日、映像で見れたことでイメージができ、紹介しやすくなりました。
33	教育センターの「つなサポ」について、活動状況等を詳しく知ることができ、不登校傾向生徒のサポートに繋げていきたいと思った。
34	メタバースについて、取り組んでいることは知っていたが、どのようなものなのか見たことが無かったため、とても興味深かった。ダンスルームはアバターが踊っていたが、それを操作している本人も踊っているのか、キーボードを操作しているだけなのか、説明がほしかった。

35	今後、少年相談を進める中で、保護者、学校との連携を第一に考えた上で、ツナサポを進めていきたいと思っています。
36	社会との関係を築く上で非常に重要な取組だと思っています。これからますます需要が高くなる分野だと思っています。
37	つなサポでの朝の会の様子を見せていただけて、ありがたかったです。もっともっと広まってほしいと思っています。

(3)「当事者の声」について、感想等自由に記入してください

当事者の声 鼎談「不登校・ひきこもりの子どもたち」の本音

- ・不登校経験者 豊田和明さん(太田在住 わせがく高校教諭)
- ・不登校の子どもの母親 岡部知香さん(太田市在住 フリースクールあおば指導員)
- ・不登校親の会 : Soothing Space 親の会 (不登校親の会)

太田フリースクールあおば 代表 関口 真由さん(太田市在住)

- ・進行役 群馬県私立通信制高校連絡協議会事務局長(わせがく高等学校教頭)丸山昌利さん

○意見・感想等

1	不登校経験者からの「不登校に陥ったきっかけ」や「不登校時にしてもらいたかった具体的な支援方法」は参考になりました。
2	実際の不登校経験者やご家族の方の生の声を聞くことができ、良かったです。
3	豊田さんのお話、岡部さんのお話、大変参考になりました。 やはり、経験した方の言葉の重みは違うと思います。 当時の心の動きや、背中を押してくれたことなども聞いて良かったです。
4	当事者がどんなふうにいるのか、直接伺うことができ、とても参考になりました。
5	ディスカッション形式でわかりやすく、実際の経験者ならではの状況と、そのホンネがリアルに聴くことができ、大変参考になった。
6	不登校を経験した方、不登校児の保護者の方話は本当に参考になりました。どんな支援を必要としていたのか。その思いを今の支援につなげていること。 その支援は、不登校児でなくすべての子供に必要としていて感じました。
7	不登校経験者の方が、通信制の高校の先生になった方だったので、それ以外の職業になった人の話が聞きたかったです。不登校になった子たちの就職できそうな所が知りたかった。
8	当事者になったことがないけど教育相談担当をしているので、当事者の声を聞いて良かったです。当事者が大人になって振り返った時の視点で語られていて良かったです。
9	不登校の子の声は寄り添う側にとっても参考になると感じました。
10	経験をした方のお話を聞くのは初めてだったので、とても貴重な機会になった。勤務している学校の生徒や保護者への声かけなどに生かしたい。これからも、学生や既卒者、保護者に向けた発信を続けていってほしいと思う
11	実体験に基づく話を聞くことができ良かったです。
12	当事者の方のお話を聞く機会が今までなかったので、学校側の対応について、意見を聞くことができよかったです。
13	不登校に対して、まずは子供、親の不安を取り除くサポート、居場所づくりが大切であると感じた。
14	不登校になってしまった根本的な原因をもう少し聞いてみたかった。家族のサポートはどんなだったのかも知りたい。
15	それぞれの立場から、生の声が聞けたのは有り難かった。今後の支援のあり方を考える視点を与えていただけた。先生からの声かけが欲しかったという言葉から、生徒は自分の存在を認めてほしいという気持ちや、教員が思っている以上に強いことを改めて知ることができた。登校しているしていないに関わらず、在籍している生徒全員をいつも意識して支援していきたい。
16	お一人お一人が、ご自身の辛かった時期を言語化して伝えてくれるのが参考になりました。「そのとき、どういう気持ちだったか」「そのとき、どうしてほしかったか」などは、人によって異なるのだと思うし、周囲で支える人たち(家族や教員)にできることにも限りがあるのでしょう。周囲が倒れない、振り回され過ぎない程度に、本人の自立に向けた寄り添いができるとよいのかな、と思いました。
17	その時どう思いどう願っていたかなど直接聞いて参考になった。でもそれは、豊田さんの場合、佐藤さんの場合で、もっといろいろ複雑なのだろう。

18	支援する側はわからない気持ちをきくことができた。当事者の視点を持って業務にあたることができるようにいかしたい。
19	当事者のお話を聞く機会が日頃ないため、とても参考になった。もう少し当事者のお話を聞く時間があるとありがたい。
20	①豊田先生にはこれからも不登校経験者として、発信を続けてほしいです。 ②フリースクールの微妙な立場が伝わってきました。今が踏ん張りどころだと思います。頑張ってください。 ③今回は進行役でしたか、丸山教頭先生の話は元気をもらえます。公教育ではない立場からの意見ですが、本音を代弁してもらっているような気がします。今度は進行役ではない立場から話を聴けるとよいです。
21	実際に不登校を経験した方やその家族の方の話はリアルな声なので、非常に参考になった。
22	実際の声は真実味や信憑性がありとても共感しました。今後の指導の参考になりました。
23	当事者の生の声として、何がよくて力になったのか、何が悪かったのかを知ることが出来ました。
24	貴重な声を聞かせていただきありがとうございます。つらい経験だけに、たくさんの人の前でお話されるのは、勇気のいることと思います。ご本人の声を聞かせていただけるのは、とても参考になります。そのうえで、様々な状況の人がいて、いろいろな考えの一つであることは心にとめておきたいと思います。
25	子ども達が何に困っているのか、親御さんが何に困っているのか、全てではないが理解できました。そこから学校関係者の関わりも少しずつ変えていく必要がありますね。対応してくれる先生もいますが、余計な仕事と捉えてしまう先生もまだ多いです。
26	本人や保護者の立場からの生の声を聞いて参考になった。
27	参考になりました。社会参加できている例は励みになります。
28	当事者の声は、子育て世帯の我が家にとって切実な話でしたが、心配してくれる先生方の存在やフリースクールなどの居場所づくりの取り組み、また通信制高校などの選択肢があることを知って大変参考になりました。
29	不登校になっても後に豊田さんのように社会とつながれていれば、不登校を問題視しなくて大丈夫なのだと思えました。
30	不登校を経験した後、わせがくの先生になって話をされている姿がすてきなと思いました。サポート校に進学する生徒が増えているので、もっとサポート校についても知りたいと思いましたし、私も中学生の担任をしているので、しっかりと寄り添えるようになりたいと思いました。
31	当事者の声を聞く機会は多くないので、貴重な話が聞けてありがたかったです。また、不登校を経験した方、保護者、支援者と様々な立場の方から聞くことができたことも良かったです。
32	当事者の声は、生徒の気持ちに寄り添うために、とても参考になりました。生徒、保護者への対応も具体的に教えていただき、学校で共有していきたいと思いました。
33	豊田さんのお話からは、何かしらの躓きや、人間関係の難しさで学校に行けないという場合でも、本人のペースで学んでいく機会が用意されていることは大変素晴らしいことだと感じた。 岡部さん、関口さんのお話からは、親の支援と、子どもの支援を分けて対応しているという点が、非常に興味深いと感じた。とても熱意をもって取り組まれていることが伝わってきたが、抱え込みすぎでしまわないか、少し心配にもなった。
34	不登校経験者の本音を聞いたことはなによりも、実り大きな研修となりました。
35	不登校支援ではすぐには変化や成果は見えないものだと思います。本日の当事者の声を聴き、社会との関係を再構築して活躍されている話を伺うことで、今ある支援を継続することで将来的に当事者の人生の支えや糧になると信じて尽力したいと思います。
36	3人の方の生の声を聞くことができ、勉強になりました。不登校を経験した方がその経験を伝えてくれることは、教員の学びにつながると思います。
37	実際に当事者が当時どう考えていたか、を聞いてよかった。

(4)「支援者からの報告」について、感想等自由に記入してください

支援現場からの報告

進行役 上原 篤彦さん(共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授)

ア)伴走支援「不登校・ひきこもり状態の子ども・若者の伴走支援に携わって」

NPO法人 カウンセリング&コミュニケーションミュー(CCM)代表 山本 泉さん

イ)居場所支援「当事者にとっての安心・安全な居場所づくりに携わって」

NPO法人 ぐんま若者応援ネット「アリスの広場」代表 佐藤 真人さん

ウ)医療支援「診察室を訪れる当事者たち」

みどりクリニック院長 鈴木 基司さん

○意見・感想等

1	サポート校について、これまでインターネットで確認していたイメージと異なりました。よい面もあれば、課題もあるのだというお話が印象に残りました。
2	様々な支援現場のお話でしたが、子どもたちへの関わり方など、皆さんの向いている方向が一緒なんだと思いました。
3	それぞれのお立場からのお話、とても興味深く聞きました。 私は学校の人間なので、やはり視野が偏ってしまうところはあります。 こういう機会に色々な視点からのお話を聞くことができ、勉強になりました。
4	どんな支援をしているのかを知ることができ、勉強になりました。特に、「アリスの会」は名前は知っていたのですが、詳しいことを知ることができて良かったです。「つまりいたらいつでも戻ってこられる場所にしたい」という佐藤さんの言葉が心に残り、居場所づくりの大切さを痛感しました。
5	伴走支援、居場所支援、医療支援とそれぞれの現場で対象者へのかかわり伺う事ができた。 活動内容と大切にしている思いがわかった。 不登校やひきこもり状態の要支援者に対する視点について我が身に置き換えて考える事ができた。
6	みどりクリニック院長の鈴木先生の話をもう少し聞きたかったです。資料について
7	引きこもりの子が回復するまでには、長い年月がかかると聞いて納得したとともに、担任している児童もそのような施設と早めに繋げておいた方がよいのかと思った。
8	支援現場の子どもたちとの出会いは子どもより保護者の困り感により、連れられてきた子どもという表現が、まさにそのとおりだと思いました。保護者対応の難しさも、改めて感じました
9	支援したい人はいても、金銭面の問題が大きいと思います。行政も含めた支援策を考えていく必要があると思います。
10	お話を聞いて、じっくりと最後まで話を聞くこと、居場所作りを心がけたいと改めて思った。
11	支援現場にて実際にどのような活動をしているのかがわかりました。 ただ、3名の方々からもう少しお話をうかがいたかったので、時間が足りない印象がありました。
12	民間を勧められないというところは、どうにか解消されるといいなと思いました。
13	公的機関では、支援方法が限られてしまうためこうした民間の支援機関が不可欠であると思った。医療機関も受診を躊躇したり、いざ受診しようとしても何ヶ月も、先になってしまうこともあり、早い段階で支援できれば良いと思う。
14	学校との連携などあれば聞いてみたいです。
15	民間やボランティアに頼りすぎている現状では、支援の必要な人たちに十分に手を差し伸べるのは難しいと感じた。

16	なかなか出口が見えない活動に、焦らず、急かさず、地道に取り組んでいる様子に頭が下がります。支援のニーズの数や多様性に対して、支援に取り組める人の数が圧倒的に足りないのだと思いました。専門家と言える人は少なく、ボランティア頼みになっている状況は、活動が不安定にならざるをえないのかな、と心配します。公からの経済支援が必要なのだな、と思いました。
17	支援者の姿勢として、信じること、傾聴すること、促すときは誘いと抑制の役割があること、話しかけてもらえる関係を大事にすること、何がその子の圧力になっているかよく考えること等々勉強になりました。
18	もっと話を聞きたいと思った。
19	日頃フリースクール等の支援者の方々のお話を聞く機会がないため、大変興味深く聞くことができた。また、聞く機会があるとありがたい。
20	SC、SSWからの意見も聴けるとよいです。上原教授が取り上げた困難家庭への働きかけもSSWならではの苦労をうかがえます。困難家庭への特効薬はないでしょう。苦労の一端に触れるだけでもありがたいです。
21	さまざまなところで支援の手が差し伸べられていることにありがたいと思います。学校でできることと支援の場でできることがうまく連携していければいいなと思いました。
22	色々な工夫がされていて、私も良い刺激になりました。
23	現場の支援者は本当に頑張っていると感じました。支援者も支援をしながら日々成長していく必要があると感じました。みどりクリニック鈴木院長の話をもっと聞きたかったです。触れなかった資料はたくさん残っていました。
24	当事者から支援者になった方のお話が大変参考になりました。両方の立場を知った上でのお話であるので、説得力がありました。ありがとうございました。障害のある児童生徒の場合も受け入れはしていただけるかどうか気になりました。障害と一概に言えないほど状況は様々なので、相談ということになるのでしょうか。
25	山本さんの話は支援現場からの報告と言うより、支援のポリシーが中心でわかりづかったです。佐藤さんのアリスの広場は今後、必要なケースに紹介していきたいと思いました。みどりクリニックにかかる子の6割が順調な発達歴には驚きました。でも、4割は発達になんらかのつまづきがあるということ。その子達に医療の現場で、しっかり本人告知をして、自己理解をうながし、中学校や高校を卒業しても色々な関係機関を頼って生活できるように支援してほしいです。
26	大学中退して引きこもりになっている兄がいるという生徒がいます。高校を卒業しても支援してくれるあり場所が知れたので紹介したいと思いました。
27	具体的な支援事例が聞けるとよいと思いました。
28	理論的な分野の話や、実際に居場所づくりに取り組んでいる方からの話を伺うことができ大変参考になりました。
29	通信制高校等で学ぶ生徒の中には、当事者で参加されていた方のように進学し教職に就くと言うような方もいれば、そうでない方もいらっしゃるかと思うので、その辺りのリアルな様子も聞けると更に良かった。
30	支援者は、自分自身を常にアップデートし継続して学んでいくことが必要なのだと改めて知ることができました。継続した支援をするための資金援助が大きな課題となっていることが再認識でき、今後どうしていくべきなのか答えはわかりませんが、考え続けなければいけないことなのだと思います。
31	なかなか民間で支援をされている方の話を聞く機会がなかったので、とても興味深かったです。サポートの仕方や、関わり方が参考になりました。「押しつけ」という言葉が身に沁みました。またみどりクリニックには、一度生徒の保護者と共にお世話になったことがあったので、生徒の不安感にいかにか寄り添い、励ませるかが大切なのかなと感じました。
32	“最善は何か”を求めて責任を感じるが多々あります。今日話を聞いて、何を目指して支援をするか、どのような心持ちで対応するか等を考えることができました。
33	各組織からの支援現場のお話は、とても参考になりました。不登校支援は、学校現場はどうしても力不足な事が多く、関係機関との連携の必要性を強く感じました

34	支援者として、どのような知識が必要か、どのような視点を持つことが大切なのか、3つの異なる立場からの意見を聞くことができて、とても参考になった。
35	特にアリスさんの活動には、経済的支援を進める訴えの必要性を強く感じました。身を粉にして無償で頑張ってくださっている方々に感謝です。
36	子供たちに内在する力を信じること、当事者の主体性や望みに寄り添うこと、成果を求めて焦ることなくリカバリーを大事にすることなど、支援の在り方が参考になりました。
37	アリスの広場の方のような具体的な支援内容が聞けると期待していました。少し残念に感じました。
38	民間団体の支援の現状は大変厳しいことがわかった。

(5)「意見交換」について、感想等自由に記入してください

意見交換

テーマ「不登校・ひきこもり状態の当事者に向き合った支援のあり方を考える」

■ コーディネーター: 上原篤彦さん(共愛学園前橋国際大学短期大学部 教授)

■ 助言者: 鈴木基司さん(みどりクリニック院長)

■ 登壇者:

岡部知香さん(不登校の子どもの母親) 関口真由さん(フリースクールあおば)

山本泉さん(CCM) 佐藤真人さん(アリスの広場)

○意見・感想等

1	専門医師先生の助言から、脳内の深い部分に関する説明や薬物療法にもある程度の限界があるのだというお話があり、不登校対応の難しさを感じました。
2	質問者の知りたいことも、自分と同じように感じている現場での悩みやジレンマなので、なにかホッとしました。支援者が孤立しないような応援メッセージが心に染みしました。
3	(2)(3)の内容をさらに掘り下げる内容で、良かったです。 司会の上原先生が、聞きたいことを上手に引き出してくださいました。
4	会場からの質問に答えていただく形式は、ピンポイントで知りたい情報を得られるので、とても良かったと思います。皆さんのお話を聞いて、本人の気持ちに寄り添うこと、安心して過ごせる居場所づくりの大切さ、などを改めて実感することができました。学校現場でできることを模索していきたいと思います。
5	不登校やひきこもり状態の当事者に向き合う支援のあり方を、自分の支援と重ねて聴くことができた。混沌とした状態で即改善や進展が見られないものであったとしても「学校復帰、何が何でも登校すべき」の考えは支援者側は捨てて、「当事者が1番望んでいることは何か」に焦点をあてて良い事を改めて考えることができた。 特に、義務教育学校現場ではこれらの内容について管理職・教員の理解がすすんでいない状況。不登校傾向等の対応実務を担当する教員の研修にぜひ入れていただきたい内容でもあった。
6	様々な立場からの意見を聞くことができ勉強になりました。立場は違っても、共通の思いで支援が行われていることに感動しました。
7	みどりクリニックの鈴木先生のように、学校の様子を聞いてくれる医者はありがたい。NPO法人がボランティアで成り立っているのはおかしい。もっと社会全体で考えるべき。
8	様々な視点から述べられているのを第三者的に聞けて良かったです。医療の視点からがあると説得力が増すので、みどりクリニックの先生がいらして良かったです
9	会場の人々の質問に答える形式はよかったです。
10	相手にとって、少しでも自分が自信もてるような支えになるよう、働きたいと実感した
11	上記同様、時間が足りないと感じました。登壇者数を1~2名少なくして、お一人お一人の発表時間をもう少し長く確保できたら良かったです。
12	こうした様々な支援機関と意見交換など官民が連携していくことで、課題などが見えてくるので、今回参加してよかった。
13	公園デビューした親子の例え話は、とても分かりやすく、イメージをつかみやすかった。本人や保護者の気持ちに寄り添いながら、チームとして役割分担をしながら支援していきたい。
14	子ども・若者を取り巻く課題は多岐に渡り、それぞれの支援機関が連携することが大事なのだと思いました。家庭と学校と支援機関と医療と、お互いの活動内容と守備範囲を理解し合うことで、支えられる子どもが少しでも増える可能性を感じました。
15	意見交換により、前述のことがよく分かった。
16	上原先生のコーディネートが良かった。
17	意見交換の中で様々な立場で考えるご意見を聞くこともとても参考になった。

18	①上原教授からの「公園デビュー」の例話はとても新鮮でした。さすがだと思いました。 ②鈴木先生の不登校支援の四者の役割分担・連携は大切な考え方だと思いました。
19	参加者の質問に答える形は、聞きたいことの答えがもらえるので良かったと思います。
20	進行がスムーズで、意見も的確で勉強になりました。
21	意見交換していく内に、登壇者の意見で大切なことが共通して語られているのに驚きました。大切なことは共通しているのですね。
22	意見交換だけでなく、半日盛りだくさんの内容で、たくさんの学びがありました。その中で、たくさん考えさせられました。 平の教員が考えたところでどうにもならないですが、自分にできることは何かを考えたいと思いました。
23	こどもの居場所を作りたいが資金面についての意見が多かったと思います。 みなかみ町は国の児童育成支援拠点事業の補助金を国と県からもらい、こどもの居場所を開設しています。町持ち出しが1/3ですが、不登校やひきこもりの子どもたちにとっての居場所となっています。利用料は無料です。
24	支援者も孤独にしない。役割を意識した連絡という言葉が印象に残りました。校内体制を考え直してみようと思います。
25	参考になりました。
26	不登校になっている本人の意思をくみ取りながら、それを受け止め寄り添い、家庭・学校・医療・カウンセラーが連携し、ある時は見守り、またある時は励ましながら、1歩踏み出す勇気をはぐむ必要性を感じました。また、人が孤立することの弊害も強く感じました。コーディネーターの上原さんの進行が上手く、「公園デビュー」のたどりは分かりやすかったと思います。
27	一人の当事者を想像したときの連続した支援のつながりをイメージすることができました。当事者を急がせることなく、さまざまな立場から寄り添っていくことの必要性和重要性を感じました。
28	参加者の質問を取り上げていただいたので、すごく身近な質問が多く、とても参考になって、良かったです。
29	質問を取り上げていただき、実際の声で回答を聞くことができました。ありがとうございました。
30	より具体的なご意見を聞くことができ、学びの多い、充実した研修でした。 有難うございました。
31	中味の濃い意見交換会であったと思います。導入部での上原先生のイメージ作りがなによりも良かったです。
32	当事者一人一人の思いや現状に寄り添い、信頼関係のもとで伴走しながら支援にあたりたいと思いました。支援側の不安も大きいものですので、チーム一丸となりたいと思います。
33	質問に答えていただく意見交換は、とても興味深く学びになりました。

Q4 次回研修会への期待

次回以降、取り上げて欲しい支援現場の課題、困り感など、御意見・御要望を記入してください。
また、可能であれば、具体的な事例を教えてください。

○意見・感想等

1	今回の研修会においても解決が難しい内容とされておりました「家庭環境の問題」について、支援現場で可能な対応や相談窓口を多く知ることができると、更にありがたいと思います。
2	返信が遅くなり申し訳ございませんでした。 メンタルヘルス不調、家族支援、などに興味があります。
3	①リストカット、自傷行為など、精神的に不安定な子どもに対する支援について。 学校でも、「SOSを出すための教育」を行っていますが、精神疾患を持っていたり疑われたりする子どもに対しては、どこまで踏み込んで良いのか、学校がするべきこととそこまでなくても良いことの境界線はどこなのか、迷うことが多々あります。 ②ヤングケアラーである子どもや、家庭的な課題が大きい子ども(貧困、病気など)への支援について。
4	①不登校傾向やひきこもり状態、発達に気がかりな生徒の、義務教育を終えたあとの学校等支援先について(支援者の事例と対応内容を参考に) ②〇〇とは…通信制高校、サポート校、定時制高校、フレックス高校、高校卒認定試験等(カリキュラムや学びの内容、行事や日課、進路について) ③義務教育学校で特別支援級→特別支援高校に行く子と行かない子(選択しなかった? 選択できなかった?)の支援についての参考事例 ④スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの実務の実際。支援者としての取り組み、困難な状況にある子ども等へのかかわり、学校における相談支援についての事例。
5	小学校入学前の就学指導を、小学校ですること。信頼関係がないところで特別支援学級を勧めることの難しさ。通常学級に在籍して不応が起きると、学級崩壊の危険性がある。
6	わせがくの方が進行役、わせがくの関係者など、一部の会社をクローズアップしているように感じてしまうので、登壇者の選定を検討していただければと思います。 テーマですが、たくさんの支援が出てきていてもなかなか質の高い支援が受けられていないと感じる幼児期や小学生あたりの困難さに目を向けるのはいかがでしょうか。
7	不登校生徒本人に会えない場合について。例えば、ずっと会えなかったけれど、何かのきっかけで動きが出たなど。
8	不登校傾向の子どもたちを支える居場所づくりは進んでいるなどと思います。不登校になる前にできることや不登校になりそうな子どもの見逃すべきでないサインなど、不登校や引きこもりになる前にできることがあれば、お話を聞きたいです。
9	生徒本人・保護者となかなか連絡が繋がらない家庭があります。民生児童委員さんをつなぐには、保護者の同意が必要であると言われていたのですが、保護者と連絡がとれずに困っています。どうしたら良いでしょうか。
10	ヤングケアラーの問題を取り上げてほしい。小さい頃からその環境で育った子どもたちが「当たり前」と思っていること、保護者が「当たり前」と思っていることが、子どもの学ぶ機会を削いでいるという点について、子どもに対しても家庭に対しても啓発になるような活動を知りたい。
11	上原先生がルール違反をされ当事者の方への質問に触れていただけたことがとてもよかった。臨機応変に対応され、当事者への質問に対する当事者からの回答を聞く機会があり大変ありがたかった。当事者がどのような思いをもち、立ち直るきっかけを掴んだのか、また逆にどのような言葉がきっかけで不登校になってしまったのか、不登校中の学校側等の支援者の関わりの中でありがたいと思い、勇気を持ち行動に移せた状況の様子、そのときにどのような言葉掛けがあったのか等、具体的にお話をいただく機会があるとありがたい。
12	①不登校・ひきこもり支援の考え方の一つにCRAFTがあります。当事者への働きかけだけでなく、保護者支援を重視しています。今回の声や報告、意見交換の中でも保護者支援に触れていました。個人的には不登校支援のコア・核は保護者支援だと思っています。 ②上原教授が専門を生かして就学前支援を話題にしてくださいました。特別支援教育では「切れ目のない支援」が叫ばれています。不登校支援でも同じです。 この研修会も、教育委員会と知事のコラボ＝共同開催ができると、義務教育→高等教育→青年期へと続く支援を見通せるかもしれません。それぞれが持ち分にこだわると、肝心の本人が置き去りになりかねません。

13	さまざまな支援現場の具体的な事例をもっと知りたいです。
14	特別に支援や配慮を要する児童生徒への具体的な支援について！
15	自立していく不登校経験者が、関わった人(親、教師、地域の人など)が、自立までの過程でどんなことを考え工夫・努力してきたのか、コラボで意見交換する場を設定して意見交換する。
16	思春期のこどもたちへの支援。リストカット。
17	本校でも通信制高校希望者が増えています。職員の中でも「入学はできたが、卒業後はどうなっているのだろう」といった声が聞かれます。手厚く見ていただいているようで、卒業生も楽しく通っているようですが、通信制高校中退者、卒業生のその後の成功例があれば知りたいです。
18	時間の許す限り様々な研修会に参加したいと思います。
19	今回、みどりクリニック鈴木先生のご講演が短かったのが残念でした。先生が用意なさっていた講演資料についてもっと聞きたかったと思いました。
20	自傷をする生徒への対応、家庭に居場所がない生徒への対応、外国籍生徒の困り感への対応。
21	親との関係性が重要であることは、今回の研修会でも度々言及されていたと思うが、親とうまく行かない状態になってしまっている子ども、親が困難を抱えてしまっている家庭に対して、どうアプローチするのが良いのか取り上げてほしい。 金銭だけでなく、親のアルコール、薬物、ギャンブルなど。